

ステークホルダーエンゲージメント

お客様への約束

研究開発の取り組み

お客様にとって最高の製品をお届けするために、タダノの開発者は、現場に足を運び、自分の目と耳で現物・現実を確認し、真のお客様の声を聞いて考えます。「お客様のお役に立つ製品を作りたい。使いやすさと安心感を提供し続けたい。」そんな思いが、新しい機能の開発に挑戦する原動力となっています。

京都大学と包括連携共同研究の契約を締結

当社の技術と、京都大学の機械工学・社会学・都市工学・情報科学等に関する最先端の学術的知見を組み合わせるべく、2018年3月に契約を締結しました。建設作業の安全性と生産性を向上させるイノベーション創出を目指します。



低温試験棟の開設

製品の活躍がグローバルに広がる中、極寒・灼熱の地では想定より動作が遅くなったり、予期せぬ現象が起きることもあります。コアバリューに更なる磨きをかけるためにも、過酷な温度環境の中で製品を動かして試験できる設備が必要と考え、2016年、志度工場に建設しました。室内温度はマイナス40度からプラス60度まで変化し、さまざまな試験が可能です。



ベンチャーキャピタルファンドへ出資

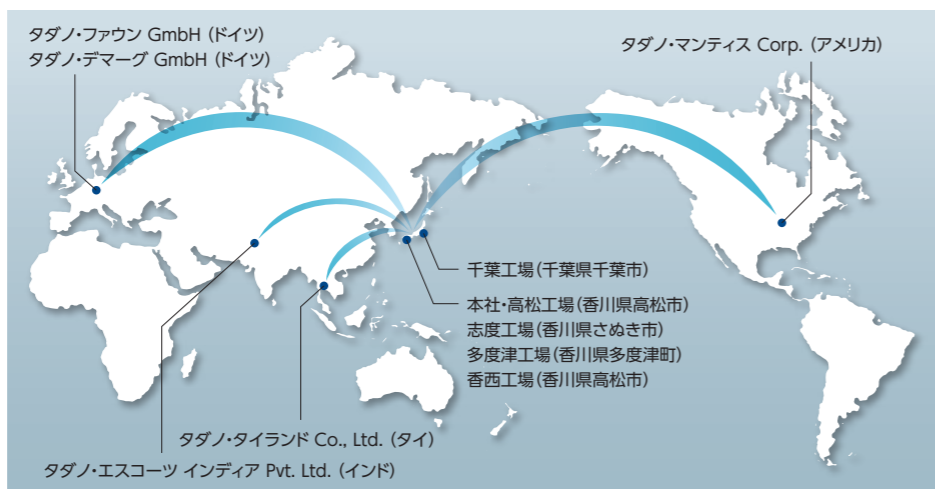
みやこ大イノベーション投資事業有限責任組合(みやこキャピタル(株)運営:京都府)に、計4億円を出資しております。独自技術を持つ研究開発型ベンチャー企業とのネットワークを獲得し、オープンイノベーションに取り組んでいきます。

グローバル生産体制と品質向上への取り組み

グローバル生産体制を構築

日本をマザー工場に位置づけながら、ドイツ、アメリカ、タイ、インドと、それぞれのニーズにあった製品を生産し、生産効率とコスト競争力に優れたグローバル生産体制を構築しています。日本流のものづくりを海外拠点でも浸透させて「世界統一品質」を作り、タダノブランドへの信頼を高めることを目指しています。また部品を相互に供給するクロスソーシングを推進し、品質と効率の更なる向上に取り組んでいます。

2019年8月には、海外向け建設用クレーンおよびブーム・シリンダ等主要部品の生産能力を高めるため、香西工場が稼働を開始しました。



品質向上への取り組み

複雑で繊細な機械のクレーンは経験学的な要素が多く、「人の技術や技能の向上」が品質の大きな鍵になります。「専門技能の習得」と「多能工化」という二つの側面から人材育成を推進し、品質向上と多能工化による効率的な生産を実現しています。

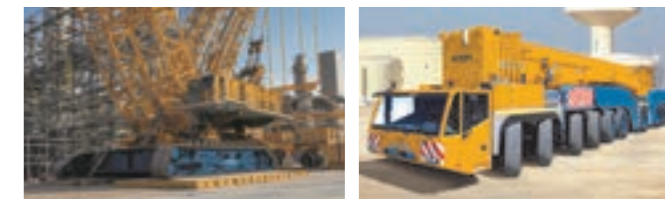
当社は1996年に品質マネジメントシステムの国際規格であるISO9001の認証を取得しました。同時に開発の初期段階から、また万市場で品質問題が発生し

た場合の迅速な対応に至るまで、お客様に満足をお届け続けられるように業務プロセスを革新しました。生産部門では、2007年から「コアバリュー活動」を導入し、管理ボードの運営などによる日々の品質状況のみえる化と改善への取り組み(PDCAサイクル)を、全生産拠点で展開しています。



Demagクレーン事業の買収

2019年2月23日に、Terex Corporation(米国)よりドイツに本拠地を置くDemagクレーン事業を買収することを発表し、必要な各種手続きを経て、2019年7月31日をもって買収が完了しました。Demagクレーン事業は、200年近い歴史を有し、大型のオールテレーンクレーンやクロールクレーンで世界有数のブランドとして定評があります。株式取得及び事業譲受を含む同買収によって、新たにクロールクレーンを当社グループのラインナップに加えるとともに、オールテレーンクレーン事業の更なる拡充を図ることで、幅広いお客様のニーズにお応えすることが可能になります。



クロールクレーン CC 8800-1 TWIN

オールテレーンクレーン AC 1000-9



Day 1 イベントでの社長スピーチ

新会社となるタダノ・デマグ GmbHでは8月1日から2日にかけて、「Day 1 イベント」をドイツ・ツヴァイブリュッケンで開催し、LE業界を革新させる新たなパートナーシップが始動しました。本イベントには、世界各国から約1,200名の社員が参加し、長期目標である「LE世界No.1」の達成に向け、結束を誓い合いました。

「bauma(バウマ) 2019」への出展

ドイツ・ミュンヘンで3年に一度開催される「バウマ」は、世界最大規模の国際建設機械・建設資材製造機械・鉱業機械・建設車輛・関連機器専門見本市です。2019年4月8日から14日に開催された「バウマ2019」には、出展企業数は60か国以上から約3,700社、ご来場者数は200か国以上から約62万人にも上りました。

当社ブースでは、「WHEN SUCCESS IS YOUR ONLY CHOICE」をキーメッセージに、オールテレーンクレーン新機種「ATF-120-5.1」「ATF-100-4.1」を含む9機種を出展しました。当社製品の安全・品質は、ドイツはもとより世界各国のお客様に高く評価していただきました。



今後の技術展望を展示

新しい試みとして、「Crane Operation Redefined(クレーンオペレーションリディファインド)」をコンセプトに、ブース内のイノベーションエリアにて業界初の技術(製品未搭載)である「Lift Visualizer(リフトビジュアライザー)」「Lift Compass(リフトコンパス)」を含む技術展示を行いました。

クレーン作業には、オペレーターが直接吊荷を見ることができない状況が多くあります。リフトビジュアライザーは、吊荷監視カメラの映像を利用し、遠方の吊荷や死角に入って見えない吊荷を真上から監視できるだけでなく、クレーンの作業領域をリアルタイムに表示することで、安全なクレーン作業を行える技術です。リフトコンパスは、オペレーターがキャブから出て、吊荷の状況を直接確認しながら操作レバーを倒した方向に吊荷を移動できる遠隔操作技術です。

ご来場者には、VRシステムを用いて体感いただき、今後の技術展望について有意義な意見交換の場となりました。



リフトビジュアライザー



リフトビジュアライザーで見たCG映像



リフトコンパス

社員との約束

健康経営への取り組み

社員の成長こそが、長期目標達成の原動力であり、社員の成長なくして企業の成長はありません。社員一人ひとりが良い仕事をし、良い人生を歩むためには、心と身体の健康が重要と捉え、「健康経営宣言」を制定しました。

健康経営優良法人に認定

当社は1981年に「心とからだの健康づくり運動」をスタートし、社内に設置した「体力増進センター」を社員と家族に開放するなど、健康文化の育成に取り組んできました。2019年2月には、経済産業省・日本健康会議において発表された「健康経営優良法人2019(大規模法人部門)～ホワイト500～」に2年連続で認定されました。



健康経営宣言

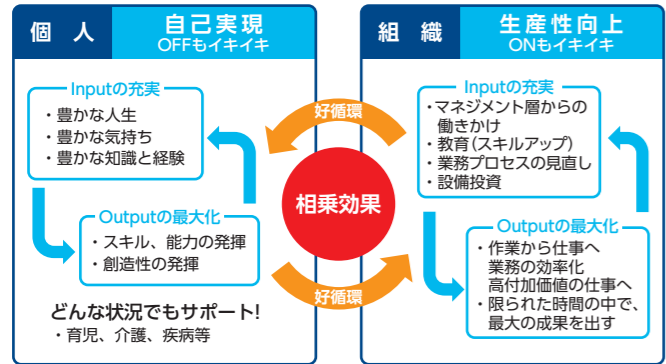
タダノは、1981年に「心とからだの健康づくり運動」をスタートし、積み重ねてきた「健康文化」があります。その「健康文化」を継続し更に発展させていくために、社員一人ひとりの「心とからだの健康づくり」を大切に、生き活きと働ける明るい職場づくりに、組織全体で取り組むことを宣言します。

2018年5月
代表取締役社長 多田野宏一

働き方改革への取り組み

2017年9月より「タダノ働き方改革プロジェクト」に取り組みました。すべての従業員がより能力を発揮し、活躍できるしくみづくりと社内意識改革を推進しました。また、働き方改革の一環として、従業員意識調査を実施することで、働き方改革のPDCAを回しました。

タダノ流 働き方改革の行動指針



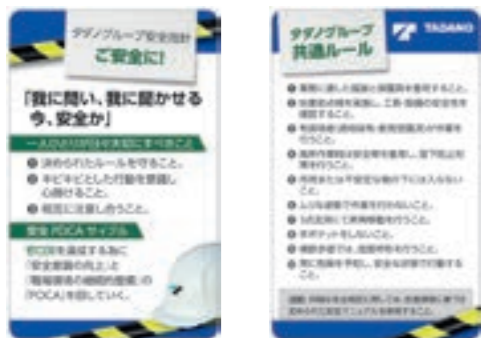
主な取り組み

| | |
|-------------|---|
| 長時間労働の管理・抑制 | <ul style="list-style-type: none"> 所定外労働の削減(月60時間を上回る時間外労働を行う従業員のゼロ化/ノー残業デーの徹底) 有給休暇の取得促進(年間15日以上取得の徹底) 意識改革(トップメッセージの発信、時間→質への啓発) |
| 業務プロセスの見直し | <ul style="list-style-type: none"> 「自部署における生産性向上」を全社共通テーマに、TQM活動を実施 RPA(ロボティック・プロセス・オートメーション)やCRM(カスタマー・リレーションシップ・マネジメント)などの導入 |
| 仕事と家庭の両立支援 | <ul style="list-style-type: none"> 柔軟な働き方の選択肢の拡充 妊娠、出産、育児期の支援拡充 介護離職防止対策 |

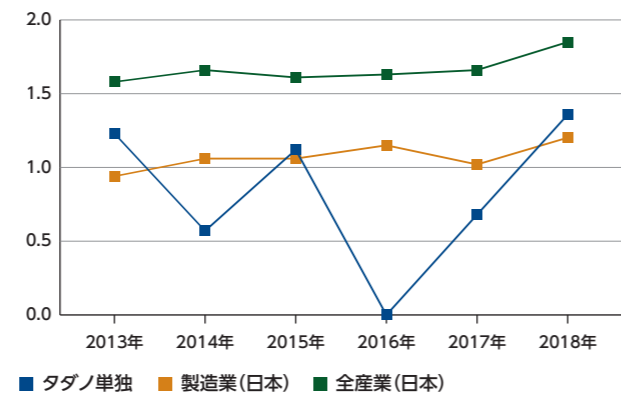
労働環境への取り組み

タダノグループ安全指針の策定

グループ社員の更なる安全意識の向上を目指して、2017年12月に「安全指針カード」を作成しました。表面に「安全への思い」を、裏面には「タダノグループ共通ルール」を掲載しています。本カードは、日本語、英語、ドイツ語、フランス語、タイ語、ヒンディー語の6カ国語で作成し、グループ全社員に配布しています。



労働災害の発生状況(度数率※)



※100万のべ実労働時間あたりの労働災害件数で、休業災害発生頻度を表します。(製造業及び全産業(総合工業系を除く)の数値は厚生労働省労働災害動向調査から引用)

ダイバーシティ推進への取り組み

性別・年齢に関わらず、多様な社員が能力を発揮できる環境の構築に努めています。

女性の活躍

2016年には、女性の活躍を推進する行動計画を策定しました。現在、タダノ単独では社員の7%を占めるにとどまっている「女性社員比率」を、10年後には10%にするため、計画的な採用を進めるとともに、次世代リーダーとして活躍できるよう研修の受講機会を増やすなど、女性が活躍できる環境整備・職場配置を進めています。

シニアの活躍

タダノグループでは、社員が培った経験・知識を引き続き活かすため、65歳を超えた社員が雇用を継続できる枠組みを整備し、65歳再雇用期間満了者を対象とした登録派遣制度を2018年に制定しました。定年後離職者に合わせた職務内容や勤務形態を提供することで、グループ全体での有用性を高めるとともに、対象者本人には就業に伴う充実感を実感できる制度を目指し、2つのコースを設定しました。こうした取り組みを通じて、若年層への技術の伝承を促進させ、お客様へ提供する品質の向上を図っています。

女性も働きやすい職場

当社は、女性の声(提案)にも耳を傾け、健診体制の変更を実現させるなど、活躍の場を与えてくれます。会社に活かされていると感じる日々です。私は、31歳のとき保健師として入社しました。その後、2人目の子どもを出産し、一度職場を離れたましたが、現在も仕事を続けています。やりがいを感じ、充実した毎日を過ごしています。



総務部安全衛生G
アシスタントマネジャー
赤澤 百合子

人財育成への取り組み

「企業は人なり。人の成長なくして、企業の成長なし」「人は財産(=人財)」という考え方のもと、人財育成を大切にしています。

TQM活動

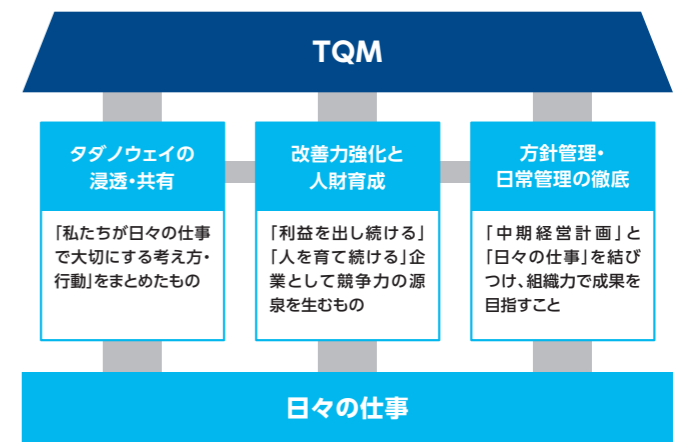
コアバリューの1つである「品質」の更なる向上を図るため、TQMを導入しました。国内・海外グループ会社を含めた全従業員で活動に取り組み、タダノらしい仕事の考え方・進め方の共有や理解を深めています。このことにより、複雑・高速・極端に変化する時代に一人ひとりが自ら考え、積極的に行動できるよう育成しています。

海外拠点でのウェビナー・ミーティング受講者(現地社員)の声

- 会社の成功には、全社員が主体的に会社の方向性を理解することが必要です。経営層として、日々、業務プロセスの改善や人財育成に取り組む必要があります。タダノウェイは、その指針となっています。
- 毎年あるウェビナー・ミーティングは、タダノグループの方針や方向性を理解することができる良い取り組みだと思っています。



TQM活動の3本柱



グローバル人財の育成

事業領域のグローバル化に伴い、グローバルな舞台上で通用するリーダーの育成を積極的に行っています。

GLS(グローバルリーダーシップスキル)研修

組織を率いるリーダーとして身につけておきたいビジネススキルを学び、日々の業務の中ですぐに実践・活用することを目指した研修です。2012年度から役員・上級管理職を対象に開始。以降、2017年度まで管理職層を対象に全8回開催し、計89名が受講済。2018年度から、受講層を監督職層に変更し、15名が受講しました。



プログラム

プレゼンテーションスキル、有効なミーティングの手法、ネゴシエーションのテクニックなどのグローバルな舞台上で通用する洗練されたスキルをトレーニング。

- ・**プレゼンテーションスキル(1日)**
短時間の講義および講師の実演を通じ行動を学ぶことに焦点を当て、受講者は実際にプレゼンテーションを実施する。
- ・**ミーティングスキル(1日)**
行動学習に焦点を当て、受講者は実際に発起人、ファシリテーターの役割を務め議題を取りまとめる。
- ・**ネゴシエーションスキル(1.5日)**
立場ではなく利害に焦点を合わせる。交渉相手と友好関係を築く、選択をする、結果よりも交渉過程を重視しチャレンジする、などを講義と演習を通して理解を深める。
- ・**リーダーシップスキル(1.5日)**
様々なリーダーシップに対する考え方や実践した内容を知る中で自分自身のリーダーシップ論を考え、語る場を作る。

取引先との約束

基本的な考え方～購買先との共生

当社製品は数万点から成るパーツで構成されており、その多くを購買先から調達しています。より安全で品質の高い製品をお客様に提供するためには、購買先との強い信頼関係が大切です。「タダノグループCSR憲章」や「タダノグループコンプライアンス規程」では以下のような考え方を明記しています。また、当社ではSOC4物質の不使用など「環境に優しい製品づくり」を進めており、購買先にも理解・協力をいただいています。

タダノグループCSR憲章:取引先との共生

私たちは、全ての取引先と強い信頼関係を築き、互いに成長し、共生するように努めます。

タダノグループコンプライアンス規程:公正な調達活動

役員・社員は、部品、資材その他の調達活動において、取引先の選定を公正に行い、取引先のコンプライアンス体制の整備状況に留意する。また、役員・社員は、取引先に対する優越的な地位を濫用して支払の遅延その他の不公正な取引を行ってはならない。

相互の成長を目指して～タダノ協栄会

競合他社に負けない技術・能力を持ち、21世紀に生き残れる自立した提案型団体になることを目指し、1994年に購買先と当社にて「タダノ協栄会」を発足しました。発足から現在まで、購買先と長期的な信頼関係を結び、お互いに成長発展を続けてきました。会員企業は合計58社(2019年4月時点)で、活動としては安全研修会、改善活動発表会、工場見学会、SVEカンファレンスなどを毎年実施しています。また、優良な購買先への表彰も毎年行っています。



協栄会メンバーの工場見学会



購買先の年度表彰



香西新工場での勉強会(人材育成活動)

Win-Winの関係を築いて～「四位一体のSVE活動」の推進

よりよい製品を開発・生産するために、購買先とタダノの3部門(開発・生産・購買)がまさに「四位一体」となって、2009年からSVE活動を推進しています。SVEとは当社独自の活動で、VEに「S(Super and Sustainable)」を付け、今までのVE活動を超越する活動として、永続的に将来に向かって力強く継続できる活動にしたいという思いが込められています。

SCOOP活動

SVE活動の中核を担う「SCOOP(Super Cooperation/素晴らしい協業)活動」は、2011年からスタートし、購買先とともに個別のテーマ・目標を設定し、お互いの強みや特性を活かしながら価値・機能向上やコスト削減に取り組む活動です。

SVEカンファレンス

SVE活動をさらに大きくかつ継続できる活動とするために、2012年から「SVEカンファレンス」を年に2回開催しています。2019年4月19日に開催された「第15回SVEカンファレンス」では、36社63名の購買先と、タダノグループより役員を含む102名の計165名が参加しました。今回のカンファレンスでは「SCOOP活動」に関する5つのテーマについて発表がありました。

テーマの一例(第15回SVEカンファレンスより)

- 海外大型カーゴクレーン フレーム開発
- シリンダ内面加工
- 旋回台溶接ひずみの改善
- アウトリガ長さ検出器
- キャブ組み立ての作業改善



SVEカンファレンス(購買先の発表)

株主・投資家への約束

当社のIR方針について

タダノグループCSR憲章では、株主・投資家の皆さまを重要なステークホルダーの一つと位置づけ、「株主・投資家の資産価値を高めるよう業績の向上と長期的かつ安定的成長に努めます」と約束しています。

私たちはすべてのステークホルダーに対し、関係法令の遵守はもとより、経営や事業活動状況など企業情報を適時かつ適切に開示します。具体的には、東京証券取引所が提供する「適時開示情報伝達システム(TDnet)」を通じて開示するとともに、内容に応じてニュースリリースの発信や当社ウェブサイトへの掲載しています。

また東京にて「アナリスト決算説明会」を年2回開催し、社長自ら決算の状況や当事業の方向性について説明しています。また機関投資家の皆さま

をはじめとする企業訪問や工場見学も積極的に受け入れています。

なお当社は、決算情報の漏洩を防ぎ、公平性を確保するため、本決算ならびに四半期ごとの決算期日の翌日から決算発表日までを「沈黙期間」とし、決算に関する問い合わせへの回答やコメント等を差し控えています。



アナリスト決算説明会(東京)

IRカレンダー

| イベント | 2019年度 | 2018年度(参考) |
|--------------------|-------------|-------------|
| 2019年3月期 決算発表 | 2019年 4月26日 | 2018年 4月27日 |
| アナリスト決算説明会(東京にて) | 2019年 5月15日 | 2018年 5月15日 |
| 第71回 定時株主総会 | 2019年 6月25日 | 2018年 6月26日 |
| 2020年3月期 第1四半期業績発表 | 2019年 7月31日 | 2018年 7月31日 |
| 2020年3月期 中間決算発表 | 2019年10月30日 | 2018年10月30日 |
| アナリスト中間決算説明会(東京にて) | 2019年11月11日 | 2018年11月7日 |
| 2020年3月期 第3四半期業績発表 | 2020年1月下旬 | 2019年1月31日 |

アナリスト・カバレッジについて

タダノの業績などを分析し、当社株式の推奨、論評などを行っている証券会社のアナリストの方々をご紹介します。(2019年6月7日現在)

| 社名(50音順) | アナリスト氏名 |
|-----------------------|--------------|
| 株式会社いちよし経済研究所 | 高辻 成彦 氏 |
| CLSA証券株式会社 | エドワード ボーレー 氏 |
| JPモルガン証券株式会社 | 佐野 友彦 氏 |
| 大和証券株式会社 | 三浦 勇介 氏 |
| 株式会社東海東京調査センター | 大平 光行 氏 |
| 三菱UFJモルガン・スタンレー証券株式会社 | 石塚 大 氏 |
| マッコーリキャピタル証券株式会社 | 境田 邦夫 氏 |
| モルガン・スタンレーMUFG証券株式会社 | 井原 芳直 氏 |

<注意事項>

- この一覧は、掲載時点で当社が入手可能な情報に基づいて、当社に関するレポートの発行を確認できる証券アナリストの方々を掲載しています。従って、この一覧には掲載していないアナリストも存在し得ること、またすべての情報が最新ではない可能性があることを、あらかじめお断りしておきます。
- この一覧の掲載に関しては、当社の業績などを分析、予測する企業または調査機関のアナリストの情報を紹介するという趣旨のみで掲載しており、当社株式の売買を勧誘するものではありません。
- この一覧のアナリスト、およびこの一覧に掲載されていないアナリストは、定期または不定期に、独自の判断に基づいて当社の業績、事業、製品、技術などを分析し、あるいは業績を予測しております。それらのいかなる過程にも、当社または当社の経営陣は一切関与していません。実際の投資に際しては、ご自身の判断で行われるようお願い致します。

社会への約束

当社は2005年にCSR委員会を設置し、CSRの推進・浸透に取り組んでいます。タダノグループは「企業が社会や人との調和の中で生かされている存在」との認識のもと、地域社会・国際社会発展への貢献と地球環境の保全に役立つ事業活動を推進し、全てのステークホル

ダーの期待に応え、企業価値を最大化することで「世界に、そして未来に誇れる企業」を目指します。この理念にもとづき、2006年に企業の行動指針としての「CSR憲章」と、これを実行するための社員個人の行動指針「CSR規範」を制定しました。

「創造・奉仕・協力」の経営理念にもとづき、「タダノにしかできない社会貢献」を通じて、社会のお役に立てればと考えています。

CSR憲章



一. お客様事業価値の向上

私たちは、安全と品質に配慮した製品・サービス・システムをお届けし、お客様の事業価値向上に努めます。

一. 新しい技術への挑戦

私たちは、お客様に感動して頂けるような独創性溢れる製品・サービス・システムづくりに挑戦します。

一. 誠実な事業活動

私たちは、公正で透明性のある誠実な事業活動に努めます。

一. 社員の尊重

私たちは、社員一人ひとりの個性を尊重し、活き活きと働ける健康な明るい職場づくりに努めます。

一. 取引先との共生

私たちは、全ての取引先と強い信頼関係を築き、互いに成長し、共生するよう努めます。

一. 投資価値の維持・向上

私たちは、株主・投資家の資産価値を高めるよう業績の向上と長期的かつ安定成長に努めます。

一. 社会との共生

私たちは、よき企業市民として、国、地域等の法令、慣習、文化を尊重し、その発展に寄与する事業活動に努めます。

一. 地球環境との調和

私たちは、全ての事業プロセスにおいて地球環境との調和に努めます。

一. 適切なコミュニケーション活動

私たちは、よきパートナーである全てのステークホルダーに対し、正確な情報を適時、適切なコミュニケーション方法で開示し、長期的な信頼関係の維持に努めます。

環境への取り組み

タダノグループは、地球環境を保全し持続可能な社会づくりに貢献するための取り組みを推進しています。2008年には環境マネジメントシステム「ISO14001」の認証を取得し、製品のみならず事業活動においても環境負荷低減への取り組みを進めています。

具体的には、志度工場に2,000平方メートルの太陽光パネル(最大出力260kw)を設置、「Next Generation Smart Plant」をコンセプトに掲げる香西新工場では、エネルギー使用量をリアルタイムで把握できるEMS(エネルギーマネジメントシステム)を導入しています。また、

志度工場・香西工場においてはバージ船を利用した製品輸送に取り組んだり、各事業所ではエアコンや照明の節電に努めています。

なお、日本における2018年度のエネルギー消費量は5,665キロリットル(原油換算/エネルギー定期報告書届出値)でした。事業活動におけるエネルギー消費の大半が工場での生産活動にともなうものであり、生産高の変化によってエネルギー消費量も大きく左右される傾向にあります。生産設備の高効率化やLED照明の導入など、今後も省エネルギーへの取り組みを続けていきます。

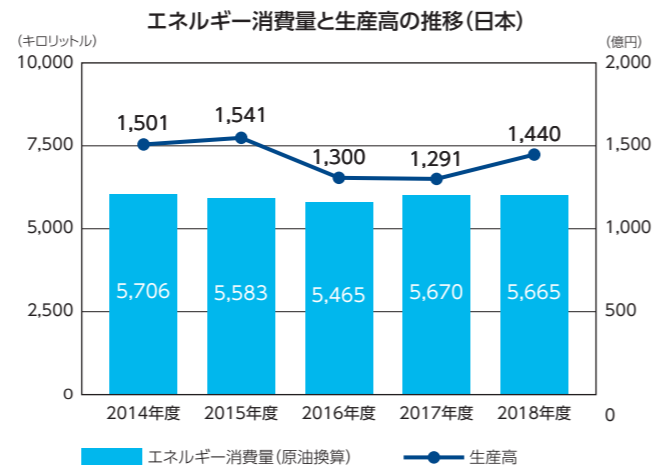
また、製品においてもエンジンの排ガス基準に対応したモデルチェンジや、各セグメントで低騒音・低公害のための機能を備えた「環境配慮型製品」を導入。ラフテレーンクレーンCREVO G4シリーズでは、環境に配慮した「燃料消費モニタ」や「エコ・モード」機能を搭載し、CO₂排出の削減や、燃料消費量の改善、低騒音作業など作業効率と環境に配慮した操作をサポートしています。



新たにバージ船を導入(2019年8月に運行を開始)



太陽光パネルの設置(志度工場)



文化財修復・学術支援

タダノらしい社会貢献の1つとして「文化財修復支援」が挙げられます。「クレーンがあれば、倒れたモアイ像を起こせるのに」という現地の呼びかけに応える形で1988~96年、「モアイ修復プロジェクト」に取り組みました。また2007年には奈良県の「高松塚古墳石室解体」で専用治具の開発など技術支援を行い、2018年2月に「ものづく

り日本大賞」の経済産業大臣特別賞を受賞しました。2008年にはカンボジア・アンコール遺跡修復のために製品を寄贈しました。

そして2019年は、創業100周年記念事業として、京都大学・花山天文台への支援とチリ・イースター島への3台目のクレーン寄贈を行います。花山天文台は太陽の観測で世界的に有名で「アマ

チュア天文学の聖地」としても知られていますが、2018年に同じく京都大学の岡山天文台が新設され閉鎖の危機を迎えていました。そこで「一般財団法人 花山宇宙文化財団」を設立し、今後10年間にわたり毎年1千万円を寄付します。この支援を通じて、タダノは天文学分野への社会貢献にも取り組みます。



モアイ修復プロジェクト



高松塚古墳石室解体の技術支援



アンコール遺跡修復のための製品寄贈



花山天文台存続への支援

科学体験イベントへの協賛・出展

「子供たちの科学離れを防ごう!」を合い言葉に、地元の大学等が開催する科学体験イベントに出展しています。

「この原理」「パスカルの原理」「滑車の原理」を学べる実験器具や高所作業車の試乗、空気圧で動く「スケルトンクレーン」操作などを子供たちに体験してもらいました。



夏休み親子工場見学会の開催

普段は目にする機会がない工場を見学し、当社製品に試乗いただくことで、お子さまにもものづくりや技術への理解・興味を深めていただくとともに、夏休みの自由研究の一助になればと考え、毎年実施しています。

2018年度は7月に志度工場で開催し、社内外あわせて42組の親子に参加いただきました。



ハートフルポケット

さまざまな社会活動を行う団体・個人に対し寄付を行う社員参加型の草の根支援組織として2007年に発足しました。会員となった社員は毎月の給与から100円、賞与から500円を献金し、集まった資金に会社からも同額を合わせて(マッチングギフト)、毎年2回の寄付を行っています。2019年3月までに、延べ52の団体に寄付しました。



献血活動等への協力

日本赤十字社の献血サポーターに参加し、年2回、香川県内の各事業所で献血を実施し、毎年400名を超えるグループ社員が協力しています。なお2018年度の献血者数は479名で、香川県の献血全体のおよそ1.47%にあたるそうです。

また地元大学や専門学校の看護学生およそ100名を対象に臨地研修の受け入れを毎年行っています。

